

五月晴れ
無限に広がる蒼穹

轟音と共に一筋の飛行機雲が浮き上がる
その先端の黒い影を指差す 幼い子供
小さな手に 皺の寄った大きな手

「あれはなに？」
天を仰いだ
すると あのうりずんの季節の記憶が
堰を切ったように
溢れ出した

五月晴れ
風が草原を駆けていった
その時――

大地を揺がす爆音と振動
翼を持った機械が頭上を過ぎる

「あれはなに？」
近くにいた祖父は
声を上げて万歳をした後
「みんなの希望だよ」

希望と呼ばれたものは絶望を運んだ
家族はみんな死んだ

勇しかった父は
砲弾で力なく吹き飛ばされ優しくかった母は
スパイ容疑で身内に撥ねられた
物知りな祖父と元気な妹は 飢えて
いつの間にか冷たくなった

目にしたくない事実
飛散する四肢 吹き出す鮮血
鉄の暴風雨 大地に無数の穴が穿たれ
形を変えてゆく
焰に包まれ 血に染まり

美しい島国は
絶望の色で塗りつぶされた

必死に希望を求めた
何でも 口にしてみた
生きるために 盗みもした
窮屈で 蒸し暑くて
息が詰まりそうなガマの中で
人間達に 押され
潰されそうになりながら終焉を祈り続けた

ある朝
カタコトな日本語が聞こえた
間もなく現れた碧眼の敵……

手を伸ばた――

慰霊の日には多くの人が平和の礎を訪れる
亡き家族 亡き親友との再会に涙する
その姿を見て思う
惨劇の歴史を伝えなければ
この姿を目に焼き付けなければ
人類は大昔から争いを続けている
文明を発展させてきた学問を
生活を豊かにしてきた道具を
武器に変えて殺戮に利用した

そして
傷つけ合い 殺し合い 奪い合ってきた
その負の理を破らなければならぬ
その先に待っているもの……

日の丸と星条旗が並んで立つこの島
間を隔てる鉄の国境
境界線を取り払う覚悟がなければ

きっとそれは逃げてゆくだろう……

手をのぼすだけでは平和には届かない
手を繋がないといけないのだ

「あれはなに？」

幼い目は今日の空よりも澄んで美しい
今の時代 人類は発展の一途にある
一部の平穏しか作れなかった我々だが
この世代なら……

世界中の人々と手を結び

永久の平和を築くことができるかもしれない

あの軍用機も 兵器さえ捨てれば

空を翔る夢にも変わる

微笑んで 天を指差す

「あれはみんなの希望だよ」

希望を君に 未来を君に――